



12月幼稚園だより

令和6年12月2日
千代田区立番町幼稚園
園長 中村 千絵

子どもと大人と一緒に創る！

— 劇遊びの楽しさ —

園長 中村 千絵



(番町幼稚園HP)

今の番町幼稚園は、劇遊びの楽しさに溢れています。

学級での劇遊びが終わった後には、その余韻を楽しむかのように、役になりきったまま動いている子どもたちに出会います。この間は、2匹のりすになっている子どもたちが、ちょこちょこ出てきて、玄関に飾ってある松ぼっくりを両手でもって、食べる真似をしていました。劇遊びが終わった後も、役柄になっている楽しさが続いているようでした。

大人と子どもと一緒に「世界」を創る

私自身が担任だった時に「幼稚園の先生をしていて、一番楽しいのはどんな時？」と聞かれ、「子どもと劇を創っている時」と答えた記憶があります。子どもから溢れ出てくるイメージと言葉を整理しながら、子どもの思いを実現するために大人もたくさん考えを出し、まさに「一緒に創る」ことを楽しんでいました。

「演劇」は総合芸術と言われます。ストーリーや人の動き、言葉、音楽、舞台道具など、全てが一つになって、劇の中の「世界」を創り出していきます。子どもと一緒に劇を創っている時は、その「世界」を創り出していたのだなあと、担任時代を思い出しました。

そして、今、番町幼稚園にも、それぞれの学年のお話の「世界」が生まれています。

話し合うってどういうこと？

劇遊びのストーリーも子どもと一緒に創っていきます。3歳児もも組であれば、劇遊びをしながら、子どもたちが口々に言ったり、動きで表現したりすることを教師が拾いながら、ストーリーの中に組み込んでいきます。4歳児さくら組、5歳児うめ組は、学級で、あるいは役柄ごとに、「話し合う」経験もしていきます。

「話し合い」で子どもたちに経験してほしいのは、その場に主体的に参加すること。大切なのは、何かを決めることではなくて、一人一人が自分の考えを表現すること。たくさん考えが出てくれば、それだけ魅力的な「世界」が生まれます。最終的に、自分のアイデアが劇の中に出てきても出てこなくても、「私が考えを出したから、楽しくなった」と感じてほしいです。



自分たちが出てくる場面のセリフを考える（うめ組）

安心して、自分の考えを表す

劇にはセリフも音楽も道具も必要ですから、子どもたちが自分の考えを表す場面はたくさんあります。

自分たちが出てくる場面での音楽をどうするか話し合っている場面では、一人の子が「〇〇の歌がいいな」と言うと、他の子が「〇〇の歌は好きじゃないから嫌だな」と言いました。すかさず、担任が「今は、曲を決めている時だから、好きか嫌いじゃなくて、自分が使いたいと思う曲を言うといいんだよ」と伝えていました。自分の考えが否定されない、受け入れられるから、どの子も自分の考えを表せるようになっていく、その空気は、こう言った小さなやり取りの中で育まれていくのだと感じました。



自分たちのダンスの曲は何かがいいのか、実際に曲を聞きながら考える（さくら組）



大道具を自分たちで作る（もも組）

子どもたち自身が自分たちで考え、衣装や道具も自分たちで作る、創っていくお話の「世界」。お話のイメージの世界に身をゆだねる楽しさ、友達と一緒に考えたことが目に見える形で実現する楽しさ、大人も子どもも、この楽しさを感じながら、今、劇遊びを生み出している最中です。7日（土）の番町こども劇場で、子どもたちが劇と歌をお見せいたします。どうぞたくさんの方のご来園をお待ちしております。

年の瀬が迫ってまいりました。どうぞよいお年をお迎えくださいませ